

丸の内

で堂々開講！

京都大学



ビジネスにも役立つ

京大アジア・アフリカ塾

アジア・アフリカ諸国における商習慣、政治経済情勢、人々の独自の考え方については、それを形成づけてきた文化や歴史が厳然と存在する一方で、グローバル化していく社会の影響を受けて徐々に変わりつつもあります。そのような歴史の変遷と現地で起こっている変化について、京大アジア・アフリカ地域研究研究科等が長年培ってきたフィールドワークの知見をもとに、紹介していきます。

一般的なセミナーやビジネス本などの「How to」にとどまらず、アジア・アフリカ諸国の商習慣や政治経済情勢、人々の独自の考え方を包括的に理解するための「知(Why)」を披露します。

《2019春期講座》 (定員：各回60名程度)

- 3/13 (水) 13:30～ 激動の東南アジア政治 ～タイ・インドネシアから～
- 3/14 (木) 13:30～ イスラーム経済の衝撃と東南アジア



1日目 2019年3月13日 (水) 13:30～16:30

激動の東南アジア政治 ～タイ・インドネシアから～

13:30～14:20 玉田芳史教授「タイ総選挙：背景と展望」

14:20～15:10 岡本正明教授「インドネシア総選挙：民主主義は後退してしまうのか」

15:25～16:30 両講師登壇でのディスカッション・質疑応答

2日目 2019年3月14日 (木) 13:30～16:30

イスラーム経済の衝撃と東南アジア

13:30～14:20 長岡慎介准教授「イスラーム経済が切り開くアジアの未来」

14:20～15:10 吉田悦章特任准教授「フィンテックの衝撃とイスラーム金融の進化」

15:25～16:30 両講師登壇でのディスカッション・質疑応答

場 所：「京都アカデミアフォーラム」in丸の内 (東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階)

定 員：各回60名程度 (先着順)

参加費：両日参加：18,000円 (学生：14,000円) 各日のみ参加：10,000円 (学生：8,000円)

詳細はこちら <https://bit.ly/2DgHg92>

(詳細内容やお申込み等は、上のURL、右のQRコードを参照していただくとともに、申込フォーム、自動返信メールをご確認ください。)

問合先：京大オリジナル株式会社 研修講習事業部 担当：岡田・鈴木・柳本

TEL：075-753-7778 E-mail：kensyu@kyodai-original.co.jp

主 催：京大オリジナル株式会社

共 催：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 (ASAFAS)



講師・講義紹介

■1日目(3/13(水))1コマ目 「タイ総選挙：背景と展望」

玉田芳史 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科長・教授(タイ政治、比較政治学)

- 業績など 『政治の司法化と民主化』(編著)晃洋書房、2017年3月
「枢密院の人事と政治」『年報タイ研究』第17号、2017年7月、1-23
「クーデターとその後：タイ陸軍の人事異動と政治介入」『国際情勢紀要』80号、2010年、151-183
- ひとこと タイ研究を30年以上やっていると、タイが途上国でなくなりつつあることを実感します。「もはや途上国ではない。」という日も遠くないのかもしれませんが、しかし、その政治は2006年以降大混乱が続いています。出口の模索は原因の究明から始まります。

■1日目(3/13(水))2コマ目 「インドネシア総選挙：民主主義は後退してしまうのか」

岡本正明 京都大学大学院東南アジア地域研究研究所教授(地域研究、政治学)【2018年度大同生命地域研究奨励賞】

- 業績など 「インドネシアにおける政治の司法化、そのための脱司法化：汚職撲滅委員会を事例に」『政治の司法化』(玉田芳史編)『暴力と適応の政治学—インドネシア民主化と安定の地方構造』京都大学学術出版会、2015年6月
- ひとこと 東南アジアは世界でも有数の経済成長地域であり、社会の変容が非常に急速です。半年も現地に行かなければすっかり状況が変わっていることも。だからこそ、オンラインのデータに加えて現場でのフィールドワークが不可欠です。最近では、インドネシアだけでなく、他の東南アジア諸国での調査も始めました。そうすると、これまで以上にインドネシアをよく分かることができます。研究の関心はつきません。

■2日目(3/14(木))1コマ目 「イスラーム経済が切り開くアジアの未来」

長岡慎介 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授(地域研究、経済学、イスラーム学)

- 業績など 『お金ってなんだろう？あなたと考えたいこれからの経済』平凡社、2017年
『現代イスラーム金融論』名古屋大学出版会、2011年
- ひとこと イスラーム経済の実践は、1970年代のイスラーム銀行の設立からスタートし、半世紀をかけて大きく発展してきました。その業態も、金融のみならず食品、日用品、ファッション、ツーリズムなど多岐にわたっています。イスラーム経済は、単にイスラーム世界の経済力向上に貢献してきただけでなく、次世代の地球社会の望ましい共存共栄のあり方についても様々なアイデアを提起しています。この講座では、イスラーム経済の魅力と(アジアや私たちにとっての)可能性を皆さんに紹介したいと思います。

■2日目(3/14(木))2コマ目 「フィンテックの衝撃とイスラーム金融の進化」

吉田悦章 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科特任准教授(地域研究、新興国経済論)

- 業績など 『グローバル・イスラーム金融論』ナカニシヤ出版、2017年
『イスラーム金融入門』東洋経済新報社、2007年
- ひとこと イスラーム金融は東南アジアでも非常に盛んです。イスラーム金融を国策とするマレーシア、世界最大のムスリム人口のニーズに応えようとするインドネシア、国際金融ハブであるシンガポール。それらの国々でも徐々に発展しつつあるフィンテックは、イスラーム金融の内容・形態・質を着実に変えようとしています。理念に基づくイスラーム金融は、フィンテックによってどう変わるのか。その本質に迫りながら、イスラーム金融の「今」をご紹介します。

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(ASAFAS)について(玉田研究科長あいさつより抜粋)

1998年4月に、京都大学の東南アジア研究センター(現在は東南アジア地域研究研究所)とアフリカ地域研究センターを母体として発足した5年一貫制の大学院で、東南アジア地域研究、アフリカ地域研究、グローバル地域研究の3専攻から構成されています。東南アジア、南アジア、西アジア、アフリカを対象とした「地域研究」を行っています。

地域研究はarea studiesの訳語です。一部で混同されることがあるコミュニティ研究ではありません。アジアやアフリカへ出かけるだけでよいというものでもなく、フィールドに赴いて、五感を存分に働かせ、見る、聞く、触る、嗅ぐ、食べることで、調査地の人びとや社会をまるごと理解することを目指します。プロクルステースの寝台(Procrustean bed)よろしく、観察者の価値観や基準を一方的に押しつけることは禁物で、現地の人びとの考え方を理解することが肝要です。そのためには、自然環境、文化・歴史、政治・経済、国際関係などを把握する必要があります。観察者の見方を、現地の人びとに投げかけてキャッチボールを行い、双方向の理解を深めます。

地域研究の学徒は日本で図書館や研究室に籠もってははいられません。地域研究にとっては、フィールドワークが生命線です。ASAFASでは、学生のフィールド派遣を支援するために、次世代型アジア・アフリカ教育研究センターを設置し、学生派遣のための予算獲得に努めてきました。現在は「海外拠点の機能強化によるアジア・アフリカ地域対応の高度グローバル人材育成」プログラムを実施中です。今後も、教員と学生が一体となって総合的な地域研究を進めていきます。詳しくはこちら：<https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/>

